

大魔王のお笑い神話



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン

ぼん子画

(530-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「嘘っぱちでも、旧友は友」

一度亡くなった人間が、今度は本当に亡くなってしまった。

六年ほど前に、大学の部活仲間の旧友 Y が、同級生 I の訃報を知らせてきた。実は、それは全くの嘘っぱちであった。ちょうどその頃『あの世にゆく準備』という本に原稿依頼があったので、次の文章を寄稿してしまった。

「友の消滅」

つい先日同級生が亡くなった。大学卒業式以来会ったことがなかった。親しくも嫌いでもなかった。どちらかというとなんか近づきたくない存在であった。

近年彼に関することを耳にした。テレビで評判のジャーナリストが弟だと（旧友 Y が）知らせてくれた。

仲間が集まる酒宴では、彼の話題で盛り上がる。陰口というやつだ。悪口といってもよい。

彼を失った今、彼は「同級生」ではなく、共に一時代を生きた「友人」になってしまった。もっと長い間陰口や悪口を言いたかったが、言えなくなってしまった。

友の消滅は自己の「死」の始まりである。そのことを知ることから、残された「生」が始まる。

後日、後輩からの情報で、まだ元気だと分かった。実名を書かなくて良かったと胸をなでおろした。大恥をかくところであった。その後、有名なジャーナリスト（池上彰さん）が弟だということも嘘だと分かった。同級生 I の父親は公務員だと聞いていたが、ウィキペディアによると池上彰さんの父は銀行員だと書かれている。それで嘘だと気付いた。

同級生 I は、音楽に詳しくフルートを吹いていた。知識も豊富で、ラディカルで格好良いので女性にもてた。部活から追放されそうになった我ら三人組を、上から目線、いや横から目線で見下げているように感じられた。それで学祭のとき、秘かに我ら三人組は突拍子もない作品を仕上げた反撃したが、彼もラディカルな作品を仕上げた。しかし、完全に我らが勝利した、と今でも信じている

ひとつ褒めておこう。彼は宗左近の詩集『燃える母』の評論を大学新聞に書いて賞をとった。わが輩はそれを読んで感服した。すぐに『燃える母』を買って読んだことがある。

卒業後は、ジャズ音楽評論家、ジャーナリスト、料理研究家、愛犬家として活躍したそう

である。

あとに残された問題は、旧友Yのことである。脳が委縮してしまったのか、元々の性癖が酷くなってしまったのか分からないが、「嘘っぱち」には困ったものである。だからと言って縁切りということはできない。まだまだ「旧友」だからである。

「嘘」といえば、カナダでシク教徒暗殺事件があった。

バンクーバー近郊で、ハルディープ・シン・ニジャー師が銃殺された。師は自分の故郷パンジャブ州の独立運動（カリスタン運動）のリーダーであった。師はカナダ国籍なのでカナダとしては、主権侵害を見過ごすわけにはいかない。「やってません」というインド政府との間で外交問題にまで発展してしまった。

どちらかが嘘を言っているのか、あるいはどちらも嘘をついていないのか、今のところ専門家も分からないそうである。工作人員ではないヒンドゥー至上主義者がやった可能性もある。

シク教といえば、ターバンを巻いて髭を生やした人たちである。右手に腕輪をはめているが、「暴力をふるってはいけない」という誡めだと聞いた。しかし、インディラ・ガンディー首相は、シク教徒の警護官に銃殺された。このときは神戸のシク教寺院も監視対象になった。

カナダにはインド系 140 万人の内、シク教徒は 77 万人もいる。ヒンドゥー、イスラムから迫害されてきたので、早くから国外にでる傾向があった。

ところで「駒形丸事件」をご存知だろうか。

グルジット・シン（シク教徒）は駒形丸（日本船籍）を借りて、多数のシク教徒とともに 1914 年カナダに向かったが、上陸を拒否されてしまった。英国植民地のインド人なら、同じ英国領カナダへも自由に往来できるはずだと主張したが、インドに追い返されてしまった。これは明らかにインド人差別である。

この駒形丸にシク教徒グルムク・シンも乗船していた。後年に、彼は多額の資金をだしてアーシュラム（宗教施設）を建設した。そこでヨーガ瞑想のリトリート（研修）を行っていた。のちに、高名な日本人ヨーガ指導者たちがこの施設に滞在していた。わが輩も何度か、この施設を訪れたことがある。古くから日本とつながりがある。

シク教は、イスラム教とヒンドゥー教の折衷宗教だといわれるが、全くヒンドゥー教の枠にはいる。シク教の開祖グル・ナーナク（1469-1538）はイスラム国パキスタン領内で生まれたが、シク教は容認されていない。だから、少数の人だけしか生誕地巡礼に行くことはできない。パキスタンでカリスタン運動でもおこされたら紛争の火種になる。わが輩は生誕地に行ったことがあるが、シク教徒から随分うらやましがられた。

もしヒンドゥー至上主義者がニジャー師を暗殺したとしたら、お門違いというものである。シク教とヒンドゥー教は兄弟のようなものである。

わが輩は嘘っぱちでも「旧友は友」だとおもっている。縁きりはできない。兄弟宗教なら直のこと、近親憎悪や政治問題を乗り越えて、仲良くしてほしいものだ。